

男鹿潟上南秋地区特別支援連携協議会通信No.2

平成25年10月3日発行

事務局：秋田県立養護学校天王みどり学園



各市町村の訪問を終えて



- ・8月上旬から10月上旬にかけて、男鹿・潟上・南秋地区の市町村の福祉・教育行政機関を訪問して、福祉と教育のネットワークの構築、5歳児健診の実施、就学支援シートの作成等について情報交換を行いました。
- ・1回目の連携協議会で、「就学支援シートを作成したい」、「5歳児健診を検討したい」という声が聞かれました。それを実現するために、すでに関係者で検討したり、計画を立てたりする市町村がありました。

1 各市町村と情報交換した内容

- (1) 男鹿潟上南秋地区連携協議会をベースとした「市町村単位の連携協議会（ネットワーク）」の構築について
- (2) 他市町村の取組を参考にした「5歳児健診・相談会」の実施について
- (3) 南秋地区の「就学支援シート」の作成について
- (4) 市町村主催の「就学や教育に関する相談会」の開催について
- (5) 福祉と教育の支援体制の現状や、発達障害の理解啓発のために研修会開催について

2 各市町村の現状

- (1) 「市町村単位の連携協議会（ネットワーク）」の構築について
 - ・福祉、保健と教育の連携の必要性を感じているが、どのように進めていくか難しい。
 - ・市町村合併で、福祉と教育の入っている建物が違うため、日ごろから情報交換ができにくい。
 - ・現時点では、福祉と教育の接点がほとんどない。
 - ・虐待を疑われる子どもについて情報交換できる組織（要保護児童対策地域協議会）があり、定期的に会議を開いたり、学校から電話で報告したりしてもらっている。
 - ・年2回、就学指導委員会を開催して、子どもの就学先や支援員配置を検討している。
- ※次回の連携協議会には、各市町村の保健担当者にも案内を送付してもらえると、協議が深まる。

天王みどり学園ではセンター的機能として地域の園や学校を訪問して、検査の実施や報告、ケース会議を行っているが、その情報を伝える場が少ない。各市町村ごとに子どもの情報を提供できる組織があれば途切れない支援が可能となる。虐待、引きこもり、不登校等、関係機関が連携して解決しなければならないケースが増えており、福祉・保健・教育等が一体となったネットワークの構築が不可欠である。

(2) 「5歳児健診・相談会」の実施について

健康診断のおしらせ



- ・必要性を感じているので、どこの部署が担当したらよいのか検討したい。
- ・早期発見と療育、就学相談等、ねらいによって担当部署が決まってくる。
- ・実施している大館市や能代市を見学したい。
- ・保健、福祉、教育の代表者による検討会を開催したい。

5歳児健診・相談会は、法定健診ではないので実施する義務はない。1学年が20人前後あれば健診をしなくても情報が引き継がれる町もある。一方、幼・保の現場からは子どもについて保護者と一緒に考える機会にしたい、小学校の現場からは就学時健診だけでは十分な情報が得られないので、5歳児健診・相談会を期待する声が多い。

(3) 「就学支援シート」の作成について

- ・「就学支援シート」(案)を作成中であり、今後、福祉と一緒に検討したい。
- ・作成したいと思っていたので、他市町村の様式や方法を参考にしたい。

小学校からは情報がほしい子どものシートが上がってこないという声が聞かれる。保護者に就学支援シートの目的や活用方法を説明して、全員対象が理想である。

(4) 「就学や教育に関する相談会」開催について

- ・日常的に相談できる体制が整備されており、必要に応じて専門機関につなげている

8月19日に県総合教育センターを会場に「就学や教育に関する相談会」が開催された。相談件数は8件であった。

(5) 研修会の開催について

- ・各地域で「発達障害の理解と支援」、「特別支援教育コーディネーターと支援員の役割」、「幼稚園・保育所から小学校、小学校から中学校への移行期の在り方」等の研修会が行われている。学童保育の指導員対象の研修会を行っている地域もあった。

3 他市町村の動向

(1) 鹿角市が5歳児相談会をスタート

- ・9月から市民部福祉課子育て支援班が中心となりスタートした。対象は気になる幼児と希望者である。スタッフは臨床心理士、保健師、家庭相談員、巡回支援専門員、保育士等である。来年度から5歳児全員が対象となる予定である。

(2) 能代山本地区特別支援連携協議会が閉会

事務局は能代養護学校と山本地区振興局福祉環境部

- ・平成17年度に県内では大仙市に次いで、2番目に福祉と教育が一体となった組織を立ち上げたが、関係機関の連携が進み、各市町とも5歳児健診が動き始めたということで、今年7月に閉会した。今後は、能代市、藤里町、八峰町、三種町が主体的に自力解決を図っていくことになる。

4 次回の「男鹿潟上南秋地区特別支援連携協議会」について

期日：平成26年1月28日(火) 13:30~15:30

場所：天王みどり学園及び県総合教育センター

内容：報告「大館市の取組」

情報交換(男鹿市・潟上市・南秋地区に分かれて)

3つに分かれての協議となりますので、各市町村の福祉・教育等の代表者の出席をお願いいたします。

